

きらめき人

おもてなしの気持ち笑顔となって半世紀

志

津川湾が広く見渡せる岬・弁天崎にそびえ立つ南三陸温泉ホテル観洋は、「創業から半世紀を超えた」と伊藤文夫さんは穏やかに話し始めた。

世の中が「レジャー・観光」にも関心が出始めた昭和40年代後半。「仙台から4時間もかかるような地域だからこそ、美しい海を見ながら宿泊できる施設が必要だ」と熱く語る創業者と出合い、「学歴など関係ない、やる気さえあれば大丈夫だ。一緒にやろう」と声をかけられ、社員になったと教えてくれた。

わずか12室（定員60名）から始まった宿泊施設は、現代のようなインターネットもガイドブックもない中、地道に営業しなければならなかった。入社間もない頃は、掃除や配膳に汗を流す一方、山形県内の団体をマイクロバスで送迎する業務にも携わった。「お客様が満足感漂う笑顔で帰られることがうれしかった」と振り返る。

ホテルは増築を重ね、温泉も掘り当て評判も上がってきたが、伊藤さんは景色や料理以上の「笑顔の接客・おもてなし」が重要だとの思いを胸に全国各地に向く。営業部長として施設や地域の良さを売り込みながら、今なお第一線で活躍している。

「パソコンやスマホなど使いこなせないけど、困っていない」とマイペースを貫く姿勢は頼もしい。

FUMIO ITO



伊藤文夫さん（戸倉出身）

「年齢的にもそろそろ潮時かなとも思っているけど、まだお役に立てるところがあるからと言われてさ」とはにかむ。この笑顔と優しい語り口調がたくさんの方から慕われている。